

■東京 2 歳優駿牝馬 (SI) アラカルト (過去全 40 回の分析)

※第 1 回 (昭和 52 年) から第 24 回 (平成 12 年) までは「東京 3 歳優駿牝馬」の名称で実施

※第 25 回 (平成 13 年)、第 26 回 (平成 14 年) は大井ダ 1,590m で実施

※第 34 回 (平成 22 年) からは地方競馬全国交流競走として実施

※記録は平成 29 年 12 月 11 日時点

■1 番人気馬と 2~3 番人気馬の好走率に差がある

単勝 1 番人気馬は 19 勝、2 着 5 回、3 着 5 回で、3 着内率が 72.5%、単勝 2 番人気馬は 8 勝、2 着 6 回、3 着 1 回で、3 着内率が 37.5%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 5 回、3 着 7 回で、3 着内率が 37.5%となっている。単勝 1 番人気馬の成績は非常に優秀だが、単勝 2~3 番人気馬の好走率はそれほど高くないレースだ。

■3 番人気以内の馬が 1~2 着を占めた例は 12 回

過去 40 回のうち 30 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 12 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーファイニッシュ決着は 3 回ある。

■外国産馬は 1 勝

外国産馬の優勝例は、現在のところ第 29 回のダガーズアラベスクだけだ。

■昨年の第 40 回で他地区所属馬が初勝利

所属別の勝利数を見ると、大井が 17 勝、川崎が 12 勝、船橋が 10 勝、愛知が 1 勝となっている。第 34 回からは地方競馬全国交流競走として実施されているが、南関東地区以外の所属馬による優勝例は、第 40 回のピンクドッグウッドが初めてだった。

■騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、4 勝の的場文男騎手が単独トップ。3 勝の石崎隆之騎手、戸崎圭太騎手、森下博騎手が 3 勝で 2 位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録も「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の川島正行調教師が単独トップ。2勝の荒井勝弘調教師、寺田新太郎調教師、長沼正義調教師が2位タイで続いている。

■ 「2 枠」と「4 番」が勝利数トップ

枠番別勝利数を見ると、10勝の2枠が単独トップ。以下は8勝の5枠、6勝の4枠、4勝の6枠と続いている、残る1枠、3枠、7枠、8枠はいずれも3勝だ。また、馬番別勝利数を見ると、8勝の4番が単独トップ。単独2位の10番は4勝どまりと、大きな差がついている。ちなみに、未勝利の馬番は13番だけだった。

<伊吹雅也>